

株 主 各 位

石川県加賀市熊坂町イ197番地
大 同 工 業 株 式 会 社
代表取締役社長 新 家 康 三

第120期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申しあげます。

さて、当社第120期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成25年6月26日（水曜日）午後5時までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

- | | | |
|------|---|--|
| 1. 日 | 時 | 平成25年6月27日（木曜日）午前10時 |
| 2. 場 | 所 | 石川県加賀市熊坂町イ197番地
当社 致遠館 1階大ホール
(末尾の会場ご案内図をご参照ください。) |

3. 目 的 事 項 報 告 事 項

1. 第120期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第120期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）計算書類の内容報告の件

決 議 事 項

- | | |
|-----------|-------------|
| 第 1 号 議 案 | 剰余金処分の件 |
| 第 2 号 議 案 | 取締役 7 名選任の件 |

以 上

~~~~~  
◎本招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、連結計算書類の連結注記表及び計算書類の個別注記表につきましては、法令及び当社定款の定めにより、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.did-daido.co.jp/>）に掲載しておりますので、提供書面には記載しておりません。従いまして、会計監査人及び監査役が監査した連結計算書類及び計算書類は、本招集ご通知提供書面の各書類のほか、当社ウェブサイトに掲載している連結注記表及び個別注記表となります。

◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.did-daido.co.jp/>）に掲載させていただきます。

## (提供書面)

### 事 業 報 告

(平成24年4月1日から)  
(平成25年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況

### (1) 当連結会計年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当期における当社グループを取り巻く環境は、海外においては、欧州の債務問題や新興国の成長鈍化傾向の影響を受け、厳しい状況で推移しました。国内においては、東日本大震災からの復興が進むにつれ、緩やかに持ち直しの動きが見られたことや、昨年12月の政権交代を受けて今後の経済政策への期待が高まったことなどから景気回復の兆しが見え始めましたが、期間全体としては円高や世界景気の減速などの影響により、先行き不透明な状況で推移しました。

このような情勢のもと、当社グループにおきましては、インドにおける二輪車用チェーン生産工場の立ち上げ、タイにおける物流システム、搬送設備製造販売会社の子会社化などグローバル展開の推進に努めてまいりましたが、東南アジアや南米における金融規制の強化等による二輪車の販売不振や円高の影響等により厳しい状況で推移しました。

その結果、当期の連結売上高は378億51百万円（前期比1.4%減少）、連結営業利益は7億4百万円（前期比22.7%減少）、連結経常利益は9億92百万円（前期比0.1%減少）、連結当期純利益は6億95百万円（前期比64.0%増加）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

〔日本〕

四輪車用チェーンについては、新型軽自動車への採用やクリーンエネルギー補助金効果によりディーゼル車向けチェーンの販売が好調であったことにより前期を上回りましたが、二輪車用チェーン、リムは完成車メーカーの欧米向け機種の販売不振、補修市場における中南米向け、アジア向けの不振により前期を下回りました。コンベヤ関連では、自動車搬送設備、環境関連設備において一部大型案件の受注がありましたが、産業機械用チェーンにおいては北米建機向けが低調であったことに加え、国内の設備投資が依然厳しい状況で推移したため前期を下回りました。

その結果、売上高は237億66百万円（前期比2.5%減少）となりました。

#### 〔アジア〕

二輪車用チェーン、リムについては、欧州債務問題から波及した東南アジアにおける金融規制の強化の影響により完成車の販売が低調であったことにより前期を下回りました。四輪車用チェーンについては、中国において尖閣問題の影響により昨年秋以降落ち込んだものの、上期における新機種 の量産開始等により前期を上回り、コンベヤ関連についてもタイにおいて新規連結子会社が加わったことにより前期を上回りました。

その結果、売上高は82億37百万円（前期比11.1%増加）となりました。

#### 〔北米〕

産業機械用チェーンについては、農業機械関連で回復傾向にあるものの依然厳しい状況で推移し、ほぼ前期並みの売上状況でした。二輪車用チェーン、リムについては、完成車メーカー向けにおいて廉価製品への移行により売上高は減少したものの、補修市場向けにおいて需要が回復してきたことにより前期を若干上回りました。また、四輪車用チェーンについては、当期より完成車メーカー向けの納入を本格的に開始したことにより前期を上回りました。

その結果、売上高は21億25百万円（前期比7.9%増加）となりました。

#### 〔南米〕

コンベヤ関連については、二輪車用生産設備の大型受注があったものの、二輪車用チェーンにおいて欧州債務問題から波及した金融規制の強化による完成車の販売不振の影響を受け前期を大幅に下回りました。

その結果、売上高は28億14百万円（前期比23.2%減少）となりました。

#### 〔欧州〕

二輪車用チェーン、リムについては、東欧の中古車市場の拡大等により補修市場向けにおいて前期を若干上回りましたが、完成車メーカー向けにおいては生産台数の減少により前期を下回りました。

その結果、売上高は9億7百万円（前期比7.7%減少）となりました。

### ② 設備投資等の状況

当期において実施した企業集団の設備投資の総額は17億22百万円で、その主な内訳は、インドにおける二輪車用チェーン生産工場の立ち上げ及びタイにおけるロジスティックセンターの新設、当社及び海外子会社の設備の更新等であります。

### ③ 資金調達の状況

当社グループの当期中の所要資金は、自己資金及び借入金によって賄っております。

また、第113期に発行した無担保社債の償還資金として、無担保社債45億円を発行しております。

## (2) 財産及び損益の状況の推移

| 区 分                                 | 第 117 期<br>平成21年4月1日から<br>平成22年3月31日まで | 第 118 期<br>平成22年4月1日から<br>平成23年3月31日まで | 第 119 期<br>平成23年4月1日から<br>平成24年3月31日まで | 第 120 期<br>(当連結会計年度)<br>平成24年4月1日から<br>平成25年3月31日まで |
|-------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 売 上 高 (百万円)                         | 33,687                                 | 37,947                                 | 38,393                                 | 37,851                                              |
| 経 常 利 益 又は<br>経 常 損 失 (△) (百万円)     | △780                                   | 1,389                                  | 993                                    | 992                                                 |
| 当 期 純 利 益 又は<br>当 期 純 損 失 (△) (百万円) | △503                                   | 847                                    | 424                                    | 695                                                 |
| 1株当たり当期純利益又は<br>1株当たり当期純損失(△) (円)   | △10.69                                 | 18.00                                  | 9.01                                   | 14.78                                               |
| 総 資 産 (百万円)                         | 50,271                                 | 48,443                                 | 47,660                                 | 50,434                                              |

## (3) 重要な親会社及び子会社の状況

### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

### ② 重要な子会社の状況（平成25年3月31日現在）

| セグメント | 会 社 名                               | 資 本 金      | 当社の出資比率 | 主 要 な 事 業 内 容                             |
|-------|-------------------------------------|------------|---------|-------------------------------------------|
| 日 本   | 株式会社大同ゼネラルサービス                      | 30百万円      | 100.00% | 陸上運送業、石油製品、化学薬品、包装資材の販売、損害保険代理業、自動車の整備・販売 |
|       | 株式会社D. I. D                         | 100百万円     | 100.00  | チェーン、リム、コンベヤ、機械、工具の販売                     |
|       | 新星工業株式会社                            | 370百万円     | 47.18   | 各種鋼線の熱処理、伸線の製造・販売、受託加工                    |
| ア ジ ア | 大同鏈条（常熟）有限公司                        | 4,100千米ドル  | 100.00  | コンベヤ、チェーンの製造・販売                           |
|       | P. T. DAIDO INDONESIA MANUFACTURING | 10,300千米ドル | 75.00   | リム、ホイール、チェーンの製造・販売                        |
|       | D. I. D VIETNAM CO., LTD.           | 435千米ドル    | 100.00  | チェーンの販売                                   |

| セグメント | 会 社 名                                          | 資 本 金     | 当社の出資比率            | 主 要 な 事 業 内 容                |
|-------|------------------------------------------------|-----------|--------------------|------------------------------|
| ア ジ ア | DAIDO SITTIPOL CO., LTD.                       | 325百万バーツ  | 51.00%             | チェーンの製造・販売                   |
|       | D. I. D ASIA CO., LTD.                         | 10百万バーツ   | 100.00             | チェーン等の販売                     |
|       | INTERFACE SOLUTIONS CO., LTD.                  | 100百万バーツ  | 52.00              | 物流システム、各種搬送設備等の製造・販売         |
|       | INTERFACE SYSTECH CO., LTD.                    | 21百万バーツ   | 46.43<br>(46.43)   | 精密機械搬送設備等の製造・販売              |
|       | DAIDO INDIA PVT. LTD.                          | 300百万ルピー  | 100.00<br>(3.33)   | チェーンの販売                      |
| 北 米   | DAIDO CORPORATION OF AMERICA                   | 3,000千米ドル | 100.00             | チェーン、リム、ホイール、テンショナー、スポーク等の販売 |
|       | RAD MANUFACTURING, INC.                        | 500千米ドル   | 100.00<br>(100.00) | リム、ホイール等の製造・販売               |
| 南 米   | DAIDO INDUSTRIAL E COMERCIAL LTDA.             | 22百万レアル   | 100.00             | チェーン、コンベヤの製造・販売              |
|       | DAIDO INDUSTRIA DE CORRENTES DA AMAZONIA LTDA. | 32百万レアル   | 100.00             | チェーンの製造・販売                   |
| 欧 州   | DID EUROPE S. R. L.                            | 510千ユーロ   | 100.00             | チェーン、リム、スポーク等の販売             |

(注) 出資比率の( )内は、当社の間接所有割合で内数であります。

### ③ 企業結合の経過

- 平成24年4月に、DAIDO INDIA PVT. LTD. が100百万ルピーの増資を行った結果、同社の資本金は300百万ルピーとなり、当社の出資比率は従来の100.00%（間接所有割合5.00%）から100.00%（間接所有割合3.33%）となっております。
- 平成24年9月に、D. I. D ASIA CO., LTD. が5百万パーツの増資を行い、同社の資本金は10百万パーツとなりました。なお、同社の増資全額を当社が引き受けたため、当社の出資比率（100.00%）に変更はありません。
- 平成24年9月に、DAIDO INDUSTRIA DE CORRENTES DA AMAZONIA LTDA. が13百万レアルの増資を行い、同社の資本金は32百万レアルとなりました。なお、同社の増資全額を当社が引き受けたため、当社の出資比率（100.00%）に変更はありません。
- 平成24年9月に、東南アジアにおける拡販及び収益拡大を目的としてINTERFACE SOLUTIONS CO., LTD. の株式を取得し、連結子会社化しております。また、当該子会社化に伴い、同社の子会社であった2社（INTERFACE SYSTECH CO., LTD. 及びINTERFACE THAILAND CO., LTD.）も連結子会社（当社の孫会社）となっております。

#### ④ 企業結合の成果

当社の連結子会社は、重要な子会社16社を含む計17社であり、持分法適用会社は1社であります。なお、当連結会計年度の概要は、「(1)当連結会計年度の事業の状況 ①事業の経過及び成果」に記載のとおりであります。

#### (4) 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、米国や日本において景気回復の兆しが見え始めていますが実体経済の回復はこれからであり、また欧州債務問題、新興国を含めた世界経済の成長鈍化懸念など、引き続き予断を許さない状況が続くと予想されます。

このような状況のもと、『新たなステージへの変革』をスローガンとする第9次中期経営計画（2012～2014年）の2年目を迎え、インドにおける二輪車用チェーンの一貫生産体制の立ち上げ等グローバル事業の更なる展開を図るとともに、将来の収益源となる柱を確立すべく、EV車輛の開発など新たな事業分野に挑戦し、新規事業の創出を目指してまいります。また、次世代を担う人財を育成し、常に発展しつづける企業体質づくりを進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

#### (5) 主要な事業内容（平成25年3月31日現在）

下記製品の製造及び販売等を行っております。

| 事業区分       | 主要な事業内容                                                      | セグメント           |
|------------|--------------------------------------------------------------|-----------------|
| チェーン関連事業   | 二輪車用、四輪車用、産業機械用（立体駐車装置用、事務機用、農業機械用、水処理装置用、工作機械用、建設機械用、コンベヤ用） | 日本、アジア、北米、南米、欧州 |
| コンベヤ関連事業   | 環境関連設備用、製鉄用、セメント用、四輪車用、港湾用、鉱業用、化学用、その他産業設備合理化用               | 日本、アジア、南米       |
| リムホイール関連事業 | 二輪車用リム、農業機械用ホイール、バギー用ホイール、二輪車用スポーク・ボルト                       | 日本、アジア、北米、欧州    |
| その他の事業     | 専用機械、工具類、階段昇降装置、製品の部品及び材料、賃貸住宅の運営・管理                         | 日本              |

(6) 主要な営業所及び工場（平成25年3月31日現在）

① 当社

|       |                                                                            |
|-------|----------------------------------------------------------------------------|
| 本 社   | 石川県加賀市熊坂町イ197番地                                                            |
| 支 社   | 東京支社（東京都中央区）                                                               |
| 営 業 所 | 大阪営業所（大阪府大阪市中央区）<br>名古屋営業所（愛知県名古屋市中村区）<br>浜松営業所（静岡県浜松市中区）<br>熊本営業所（熊本県菊池市） |
| 工 場   | 本社工場（石川県加賀市）<br>福田工場（石川県加賀市）<br>動橋工場（石川県加賀市）                               |

② 重要な子会社

| セグメント | 会 社 名                                          | 所 在 地      |
|-------|------------------------------------------------|------------|
| 日 本   | 株式会社大同ゼネラルサービス                                 | 石川県加賀市     |
|       | 株式会社D. I. D                                    | 東京都中央区     |
|       | 新星工業株式会社                                       | 愛知県名古屋市中川区 |
| アジア   | 大同鏈条（常熟）有限公司                                   | 中国         |
|       | P. T. DAIDO INDONESIA MANUFACTURING            | インドネシア     |
|       | D. I. D VIETNAM CO., LTD.                      | ベトナム       |
|       | DAIDO SITTIPOL CO., LTD.                       | タイ         |
|       | D. I. D ASIA CO., LTD.                         | タイ         |
|       | INTERFACE SOLUTIONS CO., LTD.                  | タイ         |
|       | INTERFACE SYSTECH CO., LTD.                    | タイ         |
|       | DAIDO INDIA PVT. LTD.                          | インド        |
| 北 米   | DAIDO CORPORATION OF AMERICA                   | アメリカ       |
|       | RAD MANUFACTURING, INC.                        | アメリカ       |
| 南 米   | DAIDO INDUSTRIAL E COMERCIAL LTDA.             | ブラジル       |
|       | DAIDO INDUSTRIA DE CORRENTES DA AMAZONIA LTDA. | ブラジル       |
| 欧 州   | DID EUROPE S. R. L.                            | イタリア       |

(7) 従業員の状況（平成25年3月31日現在）

① 企業集団の従業員の状況

| セグメント | 従業員数  | 前連結会計年度末比増減 |
|-------|-------|-------------|
| 日本    | 959名  | 5名増         |
| アジア   | 1,087 | 233名増       |
| 北米    | 47    | 増減なし        |
| 南米    | 323   | 81名減        |
| 欧州    | 8     | 増減なし        |
| 合計    | 2,424 | 157名増       |

（注）上記従業員数には、臨時雇用者（195名）は含まれておりません。

② 当社の従業員の状況

| 従業員数 | 前期末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|------|--------|-------|--------|
| 731名 | 6名増    | 43.7歳 | 21.4年  |

（注）上記従業員数には、臨時雇用者（14名）及び他社への出向者（108名）は含まれておりません。

(8) 主要な借入先（平成25年3月31日現在）

| 借入先           | 借入金残高    |
|---------------|----------|
| 株式会社北國銀行      | 5,419百万円 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 1,677    |
| 株式会社三井住友銀行    | 1,453    |

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の現況

(1) 株式の状況（平成25年3月31日現在）

- ① 発行可能株式総数 160,000,000株
- ② 発行済株式の総数 47,171,006株（自己株式48,089株を含む）
- ③ 株主数 4,499名

#### ④ 大株主（上位10名）

| 株 主 名                     | 持 株 数   | 持 株 比 率 |
|---------------------------|---------|---------|
| 株 式 会 社 北 國 銀 行           | 2,281千株 | 4.84%   |
| 株 式 会 社 飯 田               | 2,079   | 4.41    |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）   | 1,382   | 2.93    |
| 日 本 生 命 保 険 相 互 会 社       | 1,377   | 2.92    |
| 加 賀 商 工 有 限 会 社           | 1,308   | 2.78    |
| 大 同 生 命 保 険 株 式 会 社       | 1,298   | 2.75    |
| 株 式 会 社 三 菱 東 京 U F J 銀 行 | 1,291   | 2.74    |
| 株 式 会 社 み ず ほ 銀 行         | 1,291   | 2.74    |
| 新 家 萬 里 子                 | 1,287   | 2.73    |
| 三 井 住 友 信 託 銀 行 株 式 会 社   | 1,176   | 2.50    |

（注）持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

#### (2) 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

#### (3) 会社役員の状況

##### ① 取締役及び監査役の状況（平成25年3月31日現在）

| 会社における地位  | 氏 名       | 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況                                                       |
|-----------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 取 締 役 社 長 | 新 家 康 三   | 代表取締役<br>加賀商工会議所 会頭                                                           |
| 専 務 取 締 役 | 立 田 康 行   | D. I. D VIETNAM CO., LTD. 会長                                                  |
| 常 務 取 締 役 | 中 野 金 一 郎 | 技術開発本部管掌兼生産本部管掌兼事業部管掌<br>DAIDO SITTIPOL CO., LTD. 取締役会長                       |
| 常 務 取 締 役 | 平 野 信 一   | 管理本部長兼調達本部担当兼安全品質本部管掌                                                         |
| 取 締 役     | 金 野 誠 一   | 二輪四輪事業部長                                                                      |
| 取 締 役     | 武 田 良 一   | 安全品質本部長                                                                       |
| 取 締 役     | 西 谷 伸 一   | 産機事業部長                                                                        |
| 取 締 役     | 新 家 啓 史   | 技術開発本部長<br>DAIDO SITTIPOL CO., LTD. 代表取締役社長<br>D. I. D ASIA CO., LTD. 代表取締役社長 |

| 会社における地位  | 氏 名     | 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況 |
|-----------|---------|-------------------------|
| 取 締 役     | 菊 知 克 幸 | 生産本部長                   |
| 常 勤 監 査 役 | 福 田 治   |                         |
| 監 査 役     | 笠 松 靖 男 |                         |
| 監 査 役     | 棚 橋 健 一 |                         |
| 監 査 役     | 東 森 正 則 | 株式会社北國銀行 総合企画部所属        |

- (注) 1. 監査役笠松靖男氏、監査役棚橋健一氏及び監査役東森正則氏は、社外監査役であります。  
2. 当社は、社外監査役である棚橋健一氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

## ② 取締役及び監査役の報酬等の総額

| 区 分                | 支 給 人 員  | 報 酬 等 の 額  |
|--------------------|----------|------------|
| 取 締 役              | 9名       | 130百万円     |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 4<br>(3) | 22<br>(10) |
| 合 計                | 13       | 153        |

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。  
2. 取締役の報酬限度額は、平成19年6月28日開催の第114期定時株主総会において年額3億円以内（但し、使用人分給与は含まない。）と決議いただいております。  
3. 監査役の報酬限度額は、平成19年6月28日開催の第114期定時株主総会において年額1億円以内と決議いただいております。

## ③ 社外役員に関する事項

- 他の法人等の業務執行者としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係  
監査役東森正則氏は、株式会社北國銀行に所属しております。なお、当社と同行との間には、資金借入等の取引関係があります。
- 他の法人等の社外役員等としての重要な兼任の状況及び当社と当該他の法人等との関係  
該当事項はありません。
- 特定関係事業者との関係  
該当事項はありません。

4) 当事業年度における主な活動状況

(取締役会及び監査役会への出席状況並びに発言状況)

- イ. 監査役笠松靖男氏は、当事業年度開催の取締役会13回のうち合計12回出席、監査役会10回のうち合計9回出席し、議案審議等に必要な発言を適宜行っております。
- ロ. 監査役棚橋健一氏は、当事業年度開催の取締役会13回のうち合計13回出席、監査役会10回のうち合計10回出席し、議案審議等に必要な発言を適宜行っております。
- ハ. 監査役東森正則氏は、当事業年度開催の取締役会13回のうち合計13回出席、監査役会10回のうち合計10回出席し、議案審議等に必要な発言を適宜行っております。

5) 責任限定契約の内容の概要

当社と社外監査役である笠松靖男氏、棚橋健一氏及び東森正則氏は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する額としております。

(4) 会計監査人の状況

① 名称

有限責任 あずさ監査法人

② 報酬等の額

|                                     | 報酬等の額 |
|-------------------------------------|-------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 32百万円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 32    |

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 当社の重要な子会社のうち、大同鏈条（常熟）有限公司、P. T. DAIDO INDONESIA MANUFACTURING, D. I. D VIETNAM CO., LTD.、DAIDO SITTIPOL CO., LTD.、D. I. D ASIA CO., LTD.、INTERFACE SOLUTIONS CO., LTD.、INTERFACE SYSTECH CO., LTD.、DAIDO INDIA PVT. LTD.、DAIDO CORPORATION OF AMERICA、RAD MANUFACTURING, INC.、DAIDO INDUSTRIAL E COMERCIAL LTDA.、DAIDO INDUSTRIA DE CORRENTES DA AMAZONIA LTDA.、DID EUROPE S. R. L. は、当社の会計監査人以外の監査法人（外国におけるこれらの資格に相当する資格を有する者を含む。）の監査を受けております。

③ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

④ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社監査役会が、会社法第340条に定める解任事由に該当すると判断した場合、解任又は不再任とする方針であります。

⑤ 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

(5) 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

① 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、法令遵守並びに経営及び業務の遂行のため、必要な規定、基準を体系化し、その取り扱いと運用を定め、取締役・使用人の職務執行が適正かつ効率的に行われる体制をとっております。

安全、防災等に関しては、各種委員会を設置し、委員会の活動を通し法令を遵守するとともに、品質・環境についてはISOマネジメントシステムの運用を通して企業の社会的責任を果たしていきます。

グループ各社を含めたCSR並びにコンプライアンスに関する活動を統括し、推進するため、社長を委員長とするCSR委員会を設置しています。また、各業務執行部門から独立し、かつ社長直轄の内部統制監査室を設置し、グループ企業全体の内部統制の整備・運用状況の評価並びに企業活動における法令遵守や倫理性の確保に努めるものとします。

② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

「文書管理規定」に従い、取締役の職務執行に係る情報を文書又は電磁的媒体（以下、文書等という）に記録し、保存しております。取締役及び監査役は、これらの文書等の情報を適時に入手できるものとします。

③ 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

安全、防災等に関する規定の整備・運用及び各種委員会の活動により、危険発生の予防措置を講ずるとともに、危険発生時には、随時それぞれの担当部署が各種の委員会等を開催し、損失の危険を最小限にすべく組織的な対応をしております。

企業集団に潜在するリスクの更なる洗い出しを行い、必要な規定・体制の整備に努めるものとします。

④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

以下の経営管理システムを用いて、取締役の職務の執行の効率化を図っております。

1. 社内規定による職務権限、意思決定ルールの明文化
2. 取締役を構成員とする常勤会等の設置
3. 取締役会による中期経営計画の策定、中期経営計画に基づく単年度計画の策定、部門毎の業績目標の設定と予算の立案
4. I Tを利用した月度業績管理及び予算管理の実施

⑤ 当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

経営戦略会議を通し、当社及びグループ各社間での情報の共有化、指示・要請の伝達等を効率的に行っております。

金融商品取引法に基づく財務報告の信頼性確保については、内部統制監査室がグループ企業全体の内部統制の整備及び運用状況を検討・評価し、必要に応じてその改善策を経営者並びに取締役会に提唱します。

⑥ 監査役の職務を補助すべき使用人（補助使用人）

当社は、監査役室を設置し、監査役の職務を補助する専従スタッフを配属しております。このスタッフは、会社の業務を検証できる能力と知識を持つ人材とします。

⑦ 補助使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役は、監査役室のスタッフの人事異動について、事前に人事担当取締役より報告を受けるとともに、必要ある場合には、理由を付して当該人事異動につき人事担当取締役に変更を申し入れることができるものとします。また、当該スタッフを懲戒に処する場合には、人事担当取締役は、監査役への承諾を得るものとします。

⑧ 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制

監査役は、取締役会、常勤会その他の重要な会議に出席し、法令及び定款に定める事項並びに経営計画、経営管理、財務、人事労務その他重要な事項の報告を受けております。また、重要な決議書類等を閲覧することができるものとします。

監査役は随時、必要に応じて取締役及び使用人に対して業務・財産状況の報告を求めることができるものとします。

⑨ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、定期的に経営陣と意見及び情報の交換を行うとともに、会計監査人から会計監査内容について説明を受け、効率的な監査を実施しております。

⑩ 反社会的勢力排除に向けた体制

当社は、市民社会の秩序や企業の健全なる活動を脅かす反社会的勢力とは一切の関わりを持ちません。また、不当な要求に対しては、総務部が警察、弁護士等の外部専用機関と連携のもと、組織的に毅然とした対応をとるものとします。

## (6) 会社の支配に関する基本方針

当社は、財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等は以下のとおりであります。

### I 基本方針の内容の概要

当社取締役会は、上場会社として当社株式の自由な売買を認める以上、特定の者の大規模な買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する当社株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかし、当社がお客様のニーズを満たす技術の徹底追求を行い、高機能、高品質の製品をお届けすることにより、企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるためには、当社の企業価値の源泉である①お客様のニーズに応える技術力、②グローバルな供給体制、③取引先との強固な信頼関係、④「D. I. D」の世界的なブランド力、⑤地域経済・社会への貢献及び⑥各事業間の相互補完関係の確保を踏まえ中長期的視点に立った施策を実行することが必要不可欠であると考えております。当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者によりこうした中長期的視点に立った施策が実行されない場合、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益や当社グループに関わる全てのステークホルダーの利益は毀損されることになる可能性があります。

当社は、当社株式の適正な価値を株主及び投資家の皆様にご理解いただくようIR活動に努めておりますものの、突然大規模な買付行為がなされたときに、買付者の提示する当社株式の取得対価が妥当かどうかなど買付者による大規模な買付行為の是非は株主の皆様が短期間の内に適切に判断するためには、買付者及び当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が

提供されることが不可欠です。さらに、当社株式の継続保有をお考えの株主の皆様にとっても、かかる買付行為が当社グループに与える影響や、買付者が考える当社グループの経営に参画したときの経営方針、事業計画の内容、当該買付行為に対する当社取締役会の意見等の情報は、当社株式の継続保有を検討するうえで重要な判断材料となると考えます。

## II 当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の会社支配に関する基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

当社は、基本方針の実現に資する特別な取組みとして、上述した当社の企業価値の源泉をさらに維持・強化するために、①グローバル事業の更なる展開、②新規事業の創出及び③次世代を担う人財の育成に取り組んでおります。

当社は、経営の意思決定の迅速化及び業務執行の効率化を目的として、平成17年6月より執行役員制度を導入しています。また、経営のスリム化を図るべく、平成20年6月27日開催の定時株主総会において、取締役の員数の上限を15名から12名に減少する旨の定款変更を行いました。加えて、監査役4名のうち3名を社外監査役とし、経営に対する監視機能の強化を図っております。なお、当社は、社外監査役のうち1名を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

また、法令遵守の徹底を図るため、平成20年4月1日より内部統制監査室を新たに設置するとともに、企業の社会的責任を果たすうえで重要な活動を統括・推進するため、CSR委員会を設置しております。

## III 会社支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの概要

当社は、平成23年5月13日開催の当社取締役会において、Iで述べた会社支配に関する基本方針に照らし、平成20年5月15日付当社取締役会決議及び平成20年6月27日付第115期定時株主総会決議に基づき導入した「当社株券等の大規模買付行為への対応方針」の一部を変更したうえで継続することを決議いたしました。（以下変更後の対応方針を「本対応方針」といいます。）

本対応方針は、（i）特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、（ii）結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為（市場取引、公開買付け等の具体的な買付方法の如何を問いませんが、あらかじめ当社取締役会が同意した者による買付行為を除きます。）又は、（iii）結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社の他の株主との合意等（以下かかる買付行為又は合意等を「大規模買付行為」といい、かかる買付行為又は合意等を行う者を「大規模買付者」といいます。）が行われる場合に、①大規模買付者が当社取締役会に対して大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報を事前に提供し、②当社取締役会のための一定の評価期間が経過し、かつ③当社取締役会又は株主総会が新株予約権の無償割当て実施の可否について決議を行った後に大規模買付行為を開始する、という大規模買付ルール の遵守を大規模買付者に求める一方で、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なう大規模買付行為を新株予約権の無償割当てを利用することにより抑止し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させることを目的とするものです。

当社の株券等について大規模買付行為が行われる場合、まず、大規模買付者には、当社代表取締役宛に大規模買付者及び大規模買付行為の概要並びに大規模買付ルールに従う旨が記載された意向表明書を提出することを求めます。さらに、大規模買付者には、当社取締役会が当該意向表明書受領後10営業日以内に交付する必要情報リストに基づき株主の皆様の判断並びに当社取締役会及び独立委員会の意見形成のために必要な情報の提供を求めます。

次に、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者が当社取締役会に対し前述の必要情報の提供を完了した後、60日間（対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社全株式の買付けの場合）又は90日間（その他の大規模買付行為の場合）を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間とし、当社取締役会は、当該期間内に、外部専門家等の助言を受けながら、大規模買付者から提供された情報を十分に評価・検討し、後述の独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで、当社取締役会としての意見を取りまとめて公表します。また、当社取締役会は、必要に応じ、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、当社取締役会としての代替案を提示することもあります。なお、当社取締役会は、独立委員会の勧告に基づき、必要な範囲内で取締役会評価期間を最大30日間延長することができるものとします。

当社取締役会は、本対応方針を適正に運用し、当社取締役会による恣意的な判断を防止するための諮問機関として、当社の業務執行を行う経営陣から独立している当社社外取締役、当社社外監査役及び社外有識者の中から選任された委員からなる独立委員会を設置し、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しないため新株予約権の無償割当てを実施すべきか否か、大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと認められるため新株予約権の無償割当てを実施すべきか否か等の本対応方針に係る重要な判断に際しては、独立委員会に諮問することとします。独立委員会は、新株予約権の無償割当ての実施もしくは不実施の勧告又は新株予約権の無償割当ての実施の可否につき株主総会に諮るべきである旨の勧告を当社取締役会に対し行います。

当社取締役会は、前述の独立委員会の勧告を最大限尊重し、新株予約権の無償割当ての実施もしくは不実施の決議又は株主総会招集の決議その他必要な決議を行います。新株予約権の無償割当て実施の可否につき株主総会において株主の皆様にお諮りする場合には、株主総会招集の決議の日より最長60日間以内に当社株主総会を開催することとします。新株予約権の無償割当てを実施する場合には、新株予約権者は、当社取締役会が定めた1円以上の額を払い込むことにより新株予約権を行使し、当社普通株式を取得することができるものとし、当該新株予約権には、大規模買付者等による権利行使が認められないという行使条件や当社が大規模買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得することができる旨の取得条項等を付すことがあるものとします。また、当社取締役会は、当社取締役会又は株主総会が新株予約権の無償割当てを実施することを決定した後も、新株予約権の無償割当ての実施が適切でないと判断した場合には、独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで、新株予約権の無償割当て実施の停止又は変更を行うことがあります。当社取締役会は、前述の決議を行った場合は、適時適切に情報開示を行います。

本対応方針の有効期限は、平成23年6月29日開催の定時株主総会においてその継続が承認されたことから、当該定時株主総会の日から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとし、以降、本対応方針の更新（一部修正したうえでの継続も含みます。）については当社株主総会の承認を経ることとします。なお、本対応方針の有効期間中であっても、企業価値ひいては株主共同の利益の向上の観点から、関係法令の整備や、金融商品取引所が定める上場制度の整備等を踏まえ随時見直しを行い、本対応方針の変更を行うことがあります。

なお、本対応方針の詳細については、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス<http://www.did-daido.co.jp/>）に掲載する平成23年5月13日付プレスリリースをご覧ください。

#### Ⅳ 具体的取組みに対する当社取締役の判断及びその理由

Ⅱに記載した当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の会社支配に関する基本方針の実現に資する特別な取組みは、Ⅱに記載したとおり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための具体的方策であり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではなく、当社の基本方針に沿うものです。

また、Ⅲに記載した本対応方針も、Ⅲに記載したとおり、企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるために継続されたものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではなく、当社の基本方針に沿うものです。特に、本対応方針は、当社取締役会から独立した組織として独立委員会を設置し、新株予約権の無償割当ての実施又は不実施の判断の際には取締役会はこれに必ず諮問することとなっていること、必要に応じて新株予約権の無償割当ての実施につき株主総会に諮ることとなっていること、本対応方針の有効期間は3年であり、その更なる継続についても株主の皆様のご承認をいただくこととなっていること等その内容において公正性・客観性が担保される工夫がなされている点において、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

~~~~~  
(注) 本事業報告中に記載の金額及び株式数は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	21,099	流 動 負 債	16,968
現金及び預金	3,294	支払手形及び買掛金	4,032
受取手形及び売掛金	9,425	短期借入金	10,175
商品及び製品	2,954	リース債務	486
仕掛品	2,427	未払法人税等	80
原材料及び貯蔵品	2,227	賞与引当金	359
繰延税金資産	251	役員賞与引当金	9
その他	573	製品保証引当金	35
貸倒引当金	△55	その他	1,788
固 定 資 産	29,281	固 定 負 債	13,510
有 形 固 定 資 産	15,382	社 債	4,500
建物及び構築物	5,074	長期借入金	3,867
機械装置及び運搬具	4,058	リース債務	559
土地	2,980	繰延税金負債	1,162
リース資産	2,054	退職給付引当金	3,286
建設仮勘定	425	長期未払金	134
その他	789	負 債 合 計	30,478
無 形 固 定 資 産	390	純 資 産 の 部	
のれん	262	株 主 資 本	11,948
ソフトウェア	107	資 本 金	2,726
その他	20	資 本 剰 余 金	2,060
投資その他の資産	13,509	利 益 剰 余 金	7,180
投資有価証券	12,994	自 己 株 式	△18
繰延税金資産	74	その他の包括利益累計額	3,972
その他	440	その他有価証券評価差額金	4,634
貸倒引当金	△0	為替換算調整勘定	△661
繰 延 資 産	53	少 数 株 主 持 分	4,033
社債発行費	53	純 資 産 合 計	19,955
資 産 合 計	50,434	負 債 純 資 産 合 計	50,434

連 結 損 益 計 算 書

(平成24年4月1日から
平成25年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売 上 高		37,851
売 上 原 価		31,151
売 上 総 利 益		6,699
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		5,994
営 業 利 益		704
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	24	
受 取 配 当 金	224	
為 替 差 益	167	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	230	
そ の 他	158	806
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	408	
そ の 他	110	518
経 常 利 益		992
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	6	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	401	
補 助 金 収 入	37	445
特 別 損 失		
固 定 資 産 売 却 損	0	
固 定 資 産 除 却 損	16	16
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		1,422
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	166	
法 人 税 等 調 整 額	437	603
少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益		818
少 数 株 主 利 益		122
当 期 純 利 益		695

連結株主資本等変動計算書

(平成24年4月1日から
平成25年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株主資本合計
平成24年4月1日期首残高	2,726	2,060	6,626	△17	11,394
連結会計年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当			△141		△141
当 期 純 利 益			695		695
自 己 株 式 の 取 得				△0	△0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					—
連結会計年度中の変動額合計	—	—	554	△0	554
平成25年3月31日期末残高	2,726	2,060	7,180	△18	11,948

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額			少数株主持分	純 資 産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	為 替 換 算 調 整 勘 定	その他の包括 利益累計額合計		
平成24年4月1日期首残高	3,928	△1,197	2,730	3,585	17,711
連結会計年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当					△141
当 期 純 利 益					695
自 己 株 式 の 取 得					△0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	705	536	1,242	448	1,690
連結会計年度中の変動額合計	705	536	1,242	448	2,244
平成25年3月31日期末残高	4,634	△661	3,972	4,033	19,955

貸 借 対 照 表

(平成25年 3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	11,977	流 動 負 債	11,665
現 金 及 び 預 金	871	買 掛 金	2,444
受 取 手 形	1,220	短 期 借 入 金	3,730
売 掛 金	4,840	長期借入金 (返済1年以内)	4,080
商 品 及 び 製 品	1,516	リ ー ス 債 務	119
仕 掛 品	1,504	未 払 金	626
原材料及び貯蔵品	820	未 払 費 用	220
前 払 費 用	24	未 払 法 人 税 等	31
未 収 入 金	81	未 払 消 費 税 等	51
関係会社短期貸付金	899	前 受 金	1
繰 延 税 金 資 産	178	預 り 金	77
そ の 他	21	賞 与 引 当 金	246
貸 倒 引 当 金	△0	製 品 保 証 引 当 金	35
固 定 資 産	24,024	そ の 他	0
有 形 固 定 資 産	6,585	固 定 負 債	12,052
建 物	2,433	社 債	4,500
構 築 物	351	長 期 借 入 金	3,220
機 械 及 び 装 置	1,459	リ ー ス 債 務	170
車 輛 運 搬 具	9	繰 延 税 金 負 債	1,027
工具、器具及び備品	48	退 職 給 付 引 当 金	3,027
土 地	1,812	長 期 未 払 金	107
リ ー ス 資 産	262	負 債 合 計	23,717
建 設 仮 勘 定	206	純 資 産 の 部	
無 形 固 定 資 産	46	株 主 資 本	7,752
ソ フ ト ウ ェ ア	36	資 本 金	2,726
電 話 加 入 権	9	資 本 剰 余 金	2,051
そ の 他	1	資 本 準 備 金	2,051
投 資 そ の 他 の 資 産	17,392	利 益 剰 余 金	2,986
投 資 有 価 証 券	10,507	利 益 準 備 金	556
関 係 会 社 株 式	4,183	そ の 他 利 益 剰 余 金	2,430
出 資 金	0	固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	260
関 係 会 社 出 資 金	2,270	別 途 積 立 金	1,872
関 係 会 社 長 期 貸 付 金	719	繰 越 利 益 剰 余 金	297
破 産 更 生 債 権 等	0	自 己 株 式	△11
長 期 前 払 費 用	26	評 価 ・ 換 算 差 額 等	4,584
事 業 保 険	199	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	4,584
そ の 他	51	純 資 産 合 計	12,337
貸 倒 引 当 金	△0	負 債 純 資 産 合 計	36,055
関 係 会 社 投 資 損 失 引 当 金	△565		
繰 延 資 産	53		
社 債 発 行 費	53		
資 産 合 計	36,055		

損 益 計 算 書

（平成24年 4 月 1 日から
平成25年 3 月31日まで）

（単位：百万円）

科 目	金 額	
売 上 高		19,592
売 上 原 価		17,178
売 上 総 利 益		2,413
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		1,998
営 業 利 益		415
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	29	
受 取 配 当 金	343	
為 替 差 益	52	
そ の 他	34	460
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	122	
社 債 利 息	61	
社 債 発 行 費 償 却	2	
そ の 他	59	246
経 常 利 益		629
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	3	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	401	404
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	5	
関係会社投資損失引当金繰入額	565	570
税 引 前 当 期 純 利 益		463
法人税、住民税及び事業税	28	
法 人 税 等 調 整 額	312	341
当 期 純 利 益		122

株主資本等変動計算書

(平成24年4月1日から)
(平成25年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本							
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金				
		資本準備金	資本剰余金 合 計	利益準備金	そ の 他 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金
					固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	別 途 繰 越 利 益 剰 余 金	繰 越 利 益 剰 余 金	合 計
平成24年4月1日 期 首 残 高	2,726	2,051	2,051	556	244	1,872	333	3,006
事業年度中の変動額								
剰余金の配当							△141	△141
固定資産圧縮 積立金の積立					20		△20	—
固定資産圧縮 積立金の取崩					△3		3	—
当 期 純 利 益							122	122
自己株式の取得								—
株主資本以外の 項目の事業年度中の 変 動 額 (純 額)								—
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	16	—	△35	△19
平成25年3月31日 期 末 残 高	2,726	2,051	2,051	556	260	1,872	297	2,986

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等		純 資 産 合 計
	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	その他有価証券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
平成24年4月1日 期 首 残 高	△11	7,772	3,900	3,900	11,672
事業年度中の変動額					
剰余金の配当		△141			△141
固定資産圧縮 積立金の積立					—
固定資産圧縮 積立金の取崩					—
当 期 純 利 益		122			122
自己株式の取得	△0	△0			△0
株主資本以外の 項目の事業年度中の 変 動 額 (純 額)			684	684	684
事業年度中の変動額合計	△0	△19	684	684	664
平成25年3月31日 期 末 残 高	△11	7,752	4,584	4,584	12,337

連結計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

平成25年 5 月 7 日

大同工業株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 坂 下 清 司 ㊞
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 近 藤 久 晴 ㊞
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 小酒井 雄 三 ㊞
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、大同工業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大同工業株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

平成25年 5 月 7 日

大同工業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 坂 下 清 司 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 近 藤 久 晴 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 小酒井 雄 三 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、大同工業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第120期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第120期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針及び同号ロの各取組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- 四 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、指摘すべき事項は認められません。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号ロの各取組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと認めます。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成25年5月8日

大同工業株式会社 監査役会

常勤監査役 福田 治 ㊟

監査役 笠松 靖 男 ㊟

監査役 棚橋 健 一 ㊟

監査役 東 森 正 則 ㊟

(注) 監査役笠松靖男、監査役棚橋健一及び監査役東森正則は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

以 上

株主総会参考書類

第1号議案 剰余金処分の件

剰余金処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要政策と位置付け、安定した配当の維持を基本とし、通期の業績、経営環境並びに中長期的な財務体質の強化等を総合的に勘案して配当を行う方針といたしております。

第120期の期末配当につきましては、この基本方針に基づき、以下のとおりといたしたいと存じます。

- ① 配当財産の種類
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき金3円といたしたいと存じます。
なお、この場合の配当総額は141,368,751円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日
平成25年6月28日といたしたいと存じます。

第2号議案 取締役7名選任の件

取締役全員（9名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役会の一層迅速な意思決定を図るため、取締役を減員することとし、改めて取締役7名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者 番 号	ふ り が な 氏 （生 年 月 日）	略 歴、当社における地位及び担当 （重 要 な 兼 職 の 状 況）	所有する当社の 株 式 数
1	あら や こう ぞう 新 家 康 三 (昭和25年10月25日生)	昭和48年4月 当社 入社 昭和51年4月 当社 購買部長 昭和52年6月 当社 取締役 昭和53年11月 当社 第一製造部長 平成14年8月 当社 代表取締役社長（現任） (重要な兼職の状況) 加賀商工会議所会頭	346,125株

候補者 番号	ふ り が な 氏 (生 年 月 日)	略 歴、当 社 に お け る 地 位 及 び 担 当 (重 要 な 兼 職 の 状 況)	所有する当社の 株 式 数
2	たつ た やす ゆき 立 田 康 行 (昭和26年4月14日生)	昭和49年4月 当社 入社 平成7年10月 当社 管理本部経理部長 平成8年4月 当社 社長室長兼管理本部経理部長 平成10年7月 当社 管理本部経理部長 平成13年6月 当社 取締役 当社 管理本部経理部長兼経営企画室長 平成14年4月 当社 管理本部総務部長兼経営企画室長 平成14年10月 当社 生産本部リムホイール製造部長 平成17年6月 当社 事業支援本部長 平成19年6月 当社 常務取締役 平成21年6月 当社 事業支援本部管掌 平成23年6月 当社 専務取締役（現任） 平成23年7月 D. I. D. VIETNAM CO., LTD. 会長（現任）	40,000株
3	なか の きんいちろう 中 野 金 一 郎 (昭和23年1月2日生)	昭和45年4月 当社 入社 平成7年7月 当社 生産改善推進室専任次長 平成7年12月 当社 海外事業推進室長 平成8年5月 DAIDO SITTIPOL CO., LTD. 代表取締役社長 平成8年11月 当社 総務部付部長 平成15年6月 当社 取締役 平成16年8月 当社 管理本部経営企画部海外担当部長 平成17年6月 当社 経営企画室部長 平成19年6月 当社 常務取締役（現任） 当社 事業部管掌（現任） 平成20年4月 DAIDO SITTIPOL CO., LTD. 取締役会長（現任） 平成20年6月 当社 AS事業部長 平成23年6月 当社 技術開発本部管掌兼生産本部管掌（現任） (重要な兼職の状況) DAIDO SITTIPOL CO., LTD. 取締役会長	26,000株

候補者 番号	ふ り が な 氏 (生 年 月 日)	略 歴、当 社 に お け る 地 位 及 び 担 当 (重 要 な 兼 職 の 状 況)	所有する当社の株数
4	ひらのしんいち 平野 信 一 (昭和22年2月1日生)	昭和48年4月 当社 入社 平成3年7月 当社 管理本部総務部担当部長 平成5年7月 当社 管理本部総務部長 平成9年8月 当社 製造本部生産技術部付部長 平成9年10月 P. T. DAIDO INDONESIA MANUFACTURING代表取締役社長 平成10年3月 当社 営業本部海外部長 平成12年4月 当社 営業本部営業企画部長 平成12年11月 当社 総務部付部長 平成17年6月 当社 取締役 当社 経営企画室室長 平成23年6月 当社 常務取締役 (現任) 当社 管理本部長兼調達本部担当 兼安全品質本部管掌 (現任)	26,000株
5	あらやひろふみ 新家 啓 史 (昭和46年8月20日生)	平成14年4月 当社 入社 平成16年9月 当社 営業本部営業統括部担当部長 平成17年6月 当社 四輪事業部四輪技術営業部長 平成19年6月 当社 執行役員経営企画室付部長 平成19年7月 DAIDO SITTIPOL CO., LTD. 取締役 副社長 平成19年9月 D. I. D ASIA CO., LTD. 取締役 平成20年4月 DAIDO SITTIPOL CO., LTD. 代表取 締役社長 (現任) 平成22年4月 D. I. D ASIA CO., LTD. 代表取締役 社長 (現任) 平成22年9月 DAIDO INDIA PVT. LTD. 代表取締役 社長 平成23年6月 当社 取締役 (現任) 当社 技術開発本部長 (現任) (重要な兼職の状況) DAIDO SITTIPOL CO., LTD. 代表取締役社長 D. I. D ASIA CO., LTD. 代表取締役社長	59,150株
6	きくちかつゆき 菊 知 克 幸 (昭和32年10月10日生)	昭和56年4月 当社 入社 平成16年12月 当社 生産本部チェーン製造部 担当部長 平成17年6月 当社 四輪事業部四輪製造部長 平成23年1月 当社 福田工場長 平成23年6月 当社 取締役 (現任) 平成23年6月 当社 生産本部長 (現任)	10,000株

候補者 番号	ふ り が な 氏 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位及び担当 (重 要 な 兼 職 の 状 況)	所有する当社の 株式数
7	※ し みず とし ひろ 清 水 俊 弘 (昭和34年2月21日生)	昭和58年4月 当社 入社 平成16年9月 当社 管理本部経営企画部長 平成17年6月 当社 経営企画室長 平成19年6月 当社 経営企画室付部長 平成19年8月 DAIDO INDUSTRIAL E COMERCIAL LTDA. 代表取締役社長 (現任) 平成21年4月 DAIDO INDUSTRIA DE CORRENTES DA AMAZONIA LTDA. 代表取締役社 長 (現任) 平成22年6月 当社 執行役員 (現任) 平成23年6月 当社 管理本部経営企画部付部長 (現任) (重要な兼職の状況) DAIDO INDUSTRIAL E COMERCIAL LTDA. 代表取締 役社長 DAIDO INDUSTRIA DE CORRENTES DA AMAZONIA LTDA. 代表取締役社長	31,000株

(注) 1. ※印は、新任の取締役候補者であります。

2. 取締役候補者中野金一郎氏は、DAIDO SITTIPOL CO., LTD. の取締役会長を兼務しており、同社は当社と同一の部類に属する営業を行っており、当社は同社と製品（チェーン等）の取引関係があります。また、当社は同社に対し資金の借入保証を行っております。
3. 取締役候補者新家啓史氏は、DAIDO SITTIPOL CO., LTD. の代表取締役社長を兼務しており、同社は当社と同一の部類に属する営業を行っており、当社は同社と製品（チェーン等）の取引関係があります。また、当社は同社に対し資金の借入保証を行っております。
4. 取締役候補者清水俊弘氏は、DAIDO INDUSTRIAL E COMERCIAL LTDA. 及びDAIDO INDUSTRIA DE CORRENTES DA AMAZONIA LTDA. の代表取締役社長を兼務しており、両社は当社と同一の部類に属する営業を行っており、当社は両社と製品（チェーン等）の取引関係があります。また、当社は両社に対し資金の貸付及びDAIDO INDUSTRIAL E COMERCIAL LTDA. に対し資金の借入保証を行っております。
5. その他の取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。

以 上

メ モ

Handwriting practice lines consisting of 15 sets of horizontal dashed lines.

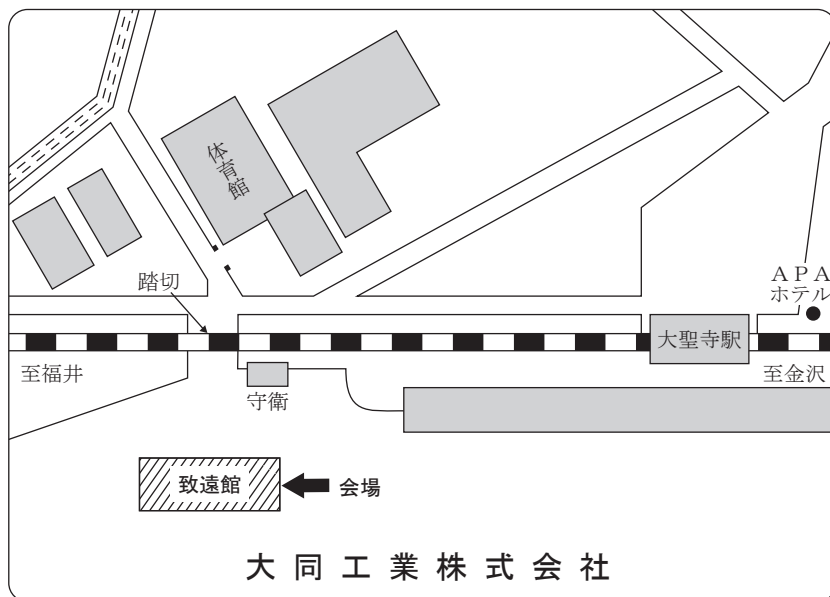
メ モ

Handwriting practice lines consisting of 15 sets of horizontal dashed lines.

株主総会会場ご案内図

会場：石川県加賀市熊坂町イ197番地

当社 致遠館 1階大ホール



交通 JR西日本北陸本線「大聖寺駅」下車、徒歩で約3分です。